

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194300042		
法人名	特定営利活動法人 和		
事業所名	グループホームなごみ浜中		
所在地	厚岸郡浜中町浜中桜北95番地		
自己評価作成日	令和元年10月12日	評価結果市町村受理日	令和2年2月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 022 kihon=true&JigyosyoCd=0194300042-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和 2 年 1 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたホーム作りを目指しており、地域のお祭りや行事・文化祭・もちつき大会等の小学校行事に参加したり小学生とのコミュニケーション交流も行っております。また、保育所の園児の訪問、各ボランティア等の慰問やホームの行事にも地域の方々の参加も頂き、開かれたホーム作りを根ざしております。そう訓練・夜間避難訓練には地域の消防団・駐在・近隣の企業の参加協力により実施しております。また、地域の方々・駐在・スーパーの店員・郵便局・小学校等にホームの利用者を知って頂き徘徊時(行方不明)等、素早く気付いていただくようにご協力をお願いしております。利用者には四季を感じて頂くように野菜作りや山菜採り、ドライブや地域の行事・お花見等に出かけております。利用者一人ひとりの願いや・希望・要望に応えるようにしております。夜間においても利用者が安心して過ごして頂くよう1ユニット2名の夜勤体制でケアをしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR浜中駅に程近い昔からの住宅街に位置し、周辺は牧畜や酪農が盛んであり、雄大な自然に囲まれた落ち着いた環境下に立地している。建物は堅牢な2階建てで、元建設会社の社屋を改造しており、しっかりとした造りに1ユニット9人の高齢者が生活を共にしている。浜中町はルパン三世の原作者モンキーパンチ氏の生まれ故郷であり、そのこともあって建物の前面にルパン三世のキャラクターが事業所名と共に大きく描かれており、建物内では居間やトイレ、居室の表れもルパン仕上げて、明るい雰囲気づくりに大きく貢献している。当事業所の優れている点は、2名での夜勤体制を挙げたい。1ユニットと職員が少人数の中で、1階と2階に作られた居室への見守り不安を取り除き、利用者への安全を徹底できるとして、開設以降2名での夜勤勤務を続けている。次に地域との一体的な活動も特筆したい。地域のお祭りや学校行事等、地元での行事には必ず総出で参加し、また災害時には事業所を開放して対処する旨を地元と約束するなど、地域の一員としてその役割を担っている当事業所に今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「元気で明るく楽しく笑顔いっぱいのホーム作りを目指します。家族 地域の方が兄愛されるホーム作りを目指します。認知症になってもその人らしく生活をしていただくよう支援します。」会議や日々の業務で確認しています。	職員で決めた理念を掲げており、理念のキーワードは「笑顔」とし実践に挑み、事務所内に掲示し、また毎朝唱和して一日のスタートとしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動(一斉清掃・交通安全協会)や行事(桜祭り・お祭り・敬老会)に参加したり、親交会の会議に参加している。事業所の行事(新年会・イベント)避難訓練等に地域の参加を頂き交流に努めている。	小さな集落であり、ご近所とも顔見知りの関係を保っている。地域活動や事業所の行事等々、相互に参加しており、また当事業所が災害時の避難所として名乗り出るなど、地域の役割を理解し率先して担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域参加の避難訓練を実施する前に、介護の技術講習や認知症の理解と支援方法を説明している。学校・郵便局・駐在・スーパー・近隣住民に認知症の理解をいただくよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業の状況・利用者の生活の状況・ひやりハット事故報告書や行事・職員研修等の報告をし意見を伺いサービスにいかしている。推進委員に避難訓練及び総合訓練・行事に参加して頂き改善に努めている。	町の職員、包括センター、家族、地域役員、ご近所の皆さん等が参加し、定期的に運営推進会議は開催され、行事の説明等の他に、事故やひやりハットまで報告され、開かれた事業所としてサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議録は事業所内に閲覧として公表されているが、運営推進会議の特性と意義を踏まえ、議事録を全利用者宅に送付し、事業内容の周知と認知症介護の理解に繋げるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から担当者の所に行き、利用者の状況説明等連絡を取り合っている。推進員でもあるので、行事や避難訓練にも参加して頂いている。	運営推進会議に、行政職員と包括センター職員の町関係者二名が参加し、また制度の運用についても適切な指導もあり、信頼性の高い関係が維持されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止宣言を掲げており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束の弊害について職員研修をし理解に努めている。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月毎に開催し、介護内容の点検と事例検討等を行っている。職員には直近の会議や申し送り時に周知し、拘束や抑制のない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について勉強会を行っている。又、新聞等で報道された介護施設の虐待実態についての意識を再確認するように努め、日々、注意するよう会議の中で周知を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要性は低いが対応できるよう関係機関に相談等をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改正の際は、利用者・家族が不信を持たないように十分に説明と納得を得るようにしている。また、そのつど不明な点が出たら、いつでも遠慮せずに問い合わせるよう伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族から要望や意見を聞き、会議等で報告し改善・運営に反映している。	毎月ニュースレターとして利用者の生活の様子を写真と共に送っており、また家族の運営推進会議への参加率も高く、要望や苦情、意見を集約し事業に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議や日々の申し送り時を利用して意見要望を聞き運営に反映させている。	定期的な会議や毎日の申し送りで活発な意見交換はされているが、別途年に2～3回は本部役員の個人面談も設定されており、意見や提案が交わしやすい場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のここの努力や勤務状況を把握して、賞与等に反映している。各自の可能労働時間を考慮して勤務して頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、新人・現任と同じ研修内容とし現任職員については、再度受けることにより振り返りと再確認できるように努めている。「法人」内部研修に参加したり、外部研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連絡協議会の研修会・勉強会に参加して交流を図っている。同業者との施設訪問や意見交換を行いサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用時に、本人の要望・意見を聞くようにしている。生活歴等のアセスメントを行い、本人に安心を提供できるように努めている。入居時に本人が食べたい物を聞きいたり、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時に家族より、意見・要望を聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の要望を聞き入れ、状況に合わせ社会資源の利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、人生の先輩として畑づくりや調理を教えて頂く機会を多く持ち、役割や責任感を感じて頂きながら、楽しみを分かち合える関係になれるよう過している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人がより良い生活を送って頂くためには、家族との関係が大切で、いつでも面会をして頂けるよう努めると共に、行事に参加して頂き家族と一緒に楽しんで頂くよう努めている。利用者がいつでも家族に電話が出来るようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れないように、友人に会いに行ったり遊びに来て頂いたり、山菜採りに行った場所に行くなど馴染みの場所に行くようにする。	利用者と職員、また地域も何かしらの繋がりがあある土地柄であり、自然と馴染みの関係が築かれている。そのような関係性を大切に考え、事業所の都合で断ち切れない様、努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の生活を第一に考え、孤立にならないように日中は関わりが持てるように、利用者同士が居心地の良い場所で過ごして頂くよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所してもこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意見・要望に耳を傾け、実行できることは即実行するように努めている。困難な場合は家族等とともに相談し検討するように努めている。（本人の）願いでもあった孫の結婚式にサプライズで参加するなど、本人の思いに努めている。	本人の生活に添いながら、嬉しい事や嫌な事などの好き嫌いを理解し、職員で共有しながら本人本位になるように努め、困難な場合も家族や記録から意に沿えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のアセスメントや家族からの情報を得ながら、今までの馴染みの暮らしぶりの把握に努めている。担当していたケアマネージャーより情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の生活状況や心身の状態等について、職員間の申し送り時にしっかり現状の把握を行い、ケアの変更時は即回覧で把握できるようにしている。職員は日々変化する利用者に対し、即対応できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族から意見・要望と日々の生活状況等より必要なサービスを取り入れ、介護支援専門員・職員等で情報交換を行い作成している。	職員が日々の生活を支援していく中から、必要な事項や不足しているサービス等を考慮し、医療的側面、家族の要望を聞き取りながら原案を作り、計画作成者がカンファレンスしながら、実勢にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、本人の状況把握や気づき・変化を職員間で共有し、実践や介護計画にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時のニーズに合わせ、柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの支援を頂き非難訓練や行方不明時の対応等について、地域のフォーマル・インフォーマルの協力を得るようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療関係機関が週1回往診して、本人の状況を把握し必要時にホーム・家族・医師のムンテラを行い必要な医療を受けられるよう支援している。又、利用者の状況変化を医師に連絡し、医師の必要性等の指示を受けている。	医療機関が少なく、かかりつけ医が協力医の場合が多く、往診と訪看を活用しながら、24時間オンコール可能でもあり、安心できる医療体制で介護に臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来られ、バイタルチェックや日常の気づき、医師の相談や助言を頂いている。職員の情報、利用者の医療等の相談により医師に情報を伝えたり、医師の指示をし適切に医療を受けられるようサポートしてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、職員が必ず付き添うようにしている。入院時はなるべく面会に行くようにしている。病院のソーシャルワーカーや看護師と情報交換するようにし、退院時に対応できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化してきた時点で、本人・家族と相談して必要においては医師と相談を行い、本人・家族との意志を尊重するようにしている。重度化になる前から・家族・ホーム・医師とのムンテラを随時行い、家族の意向を確認している。	事前に看取り介護は医療的な問題で困難である事を説明済みであるが、口腔摂取が可能な限り本人の希望に沿いたい旨も伝え、利用者にとって適切な処遇とは何かを医師、家族を含め検討し最終的支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が利用者の急変時の救急対応等に対応できるように、普通救命講習会を実施している。救急対応マニュアルの勉強会を行い対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の避難訓練・地域・消防・消防署と総合夜間避難訓練を実施し、体制を整え災害時に備えている。日中・夜間のフロチャートを作成し、出勤職員の体制作りをしている。	地域住民や地区消防団の全面的な協力を得ながら、夜間想定を含め避難訓練を実施している。災害時には事業所の建物を地域に開放し、避難所としても機能できる様、体制作りを検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を守るように努め、特に言葉使いについて気をつけている。また、申し送り時や会議で言葉使い等について確認し合っている。	理念である「元気で明るく楽しく笑顔いっぱい」のホーム作りを目指します・・・」を主眼としてケアに徹しており、声掛けや促し、誘いをお願い等々、礼節に満ち笑顔に富んだ介護で臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何がしたいのか、どうしたいのか聞きながら支援している。また、日々表情や言葉を察知しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活リズムに合わせ、生活して頂くように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が今までしてきた、おしゃれの支援をしている。パーマをかけていた人はパーマをかけに美容室に連れて行くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食事を提供したり、誕生日には本人の食べたい物を聞いて、提供している。	献立は作らず、当日の要望や食材と相談しながら提供し、山菜も利用者と共に摘み、差し入れの野菜を使いながら、職員も同席し楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を確認している。食事量の少ない方に対し、栄養補助食で補っている。食事の形態も考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の、口腔ケアの支援をしている。うがい薬を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、トイレでの排泄が出来るように支援している。日中・夜間のおむつ・パットの等の使い分けをしている。本人の排泄パターンに合わせた排泄誘導に努めている。	排泄はトイレで行うことを原則とし、時間での誘導や仕草や動きも把握して、乳酸品や軽い運動も取り入れながら、自然な排泄になるよう支援している。またオムツの是非をいつも問いかけながら、布パンツへの転換を積極的に進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として食物繊維や牛乳・ヨーグルト等の乳製品を摂って頂くようにしている。水分を十分に摂って頂くようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のタイミングで入浴できるように声掛けを行っている。利用者の状況や気分を考慮している。リラックス出来るように入浴剤を使用している。	一日おきにお湯を張って、入浴を準備している。一日の入浴は3人程度で、ゆっくりとお風呂を楽しめるよう、個々に沿った入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に合わせて、日中に休息して頂くようにしている。前日の睡眠状況を確認し眠りやすいソファやベッドで休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方箋を確認し、薬等の変更に伴う体調の変化に気を配るように努めている。変化時は医師や看護師に連絡し情報の提供をしている。服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に張り合いや潤いを持って頂ける様に外出やドライブ・役割等(食事の準備・後片付け・畑づくりや山菜の下ごしらえから調理)の気分転換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物等の外出・外食に出掛ける機会を支援している。利用者の希望を取り入れ家族と相談の上、連れて行くようにしている。	季節のドライブの他に、散歩を日課として出歩くように努め、ご近所のお庭を拝見したり、買い物に出かけたり、体調や天候を考慮しながら、閉じこもらない介護に努めている。また墓参や初詣等も家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できる利用者には、本人に管理をして頂くようにしている。家族と相談し買い物時には本人にお金を渡して、買い物して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも電話をかけれるようにしている。(携帯電話を持参している方もいる)手紙の代筆や切手の購入や郵便の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は心地よいものにするために、花や絵を飾ったり、温度・湿度・空気清浄機を設置している。季節感を取り入れた装飾をしている。	がっしりとした造りで、居間兼食堂は開放的な広さがあり、採光も豊富で、ゆっくりと過ごせる様工夫がされている。事務室や風呂場、トイレの表示、各室の表れもルパン三世のキャラクターが描かれており、明るい雰囲気として利用者や家族に好評を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるように、ソファの配置やテーブルの配置の工夫をしている。本人の好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、居室には本人の馴染みの物や使い慣れたもの持参してかまわない旨を伝えている。	居室には、昔馴染みの家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気が感じられ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間時、利用者の物音が確認できるので、職員がすぐに対応できるようになっている。2階の利用者が居室から出てきたらモニターとチャイムで知らせようになっている。夜間の排泄時見当識にならないように照明に工夫している		